

展 開	<p>5 資料1の登場人物の消費行動について話し合い発表する。 「登場人物のお金の使い方の問題点を挙げましょう。」 「具体的な改善策について班で話し合ってみましょう。」</p>	<p>○ 「自立」するためには上手にお金を使う必要があることをおさえ、安易に「お小遣いを減らす」「お金を使わない」という改善策にならないようにする。</p> <p>○ 個々の経験や話し合いを通して、支出の見直しや計画的な使い方など最善策をまとめさせる。</p> <p>○ 改善策についてキーワードを使って理由まで書かせることでお金の上手な使い方近づける。</p> <p>○ アンケート結果を示し、クラスにもお金の使い方を見直した方がよい生徒がいることを伝える。</p>	<p>一人の消費者としてお金をどのように使っているか、自分等の消費行動の改善策を考えている（工夫・創造）</p>	<p>発表 用紙 マジック</p>
ま と め	<p>6 「お金」の使い方についてまとめ、これからの消費行動の改善策を考える。</p>	<p>○ 「お金の持ち主」の最後を読み、お金を使うことについて再考させ、本時の意見や自らが考え出した答えを実践していくことが必要であることを伝える。</p>		

<資料1> 次の例文を読んで、「**お金**」の使い方について考えてみよう。

ユミエ（姉）とタケシ（弟）は高校生のキョウダイです。

ユミエは、おこづかいをはたいてお母さんの誕生日のプレゼントを買った。

ユミエは、弟のタケシが自分のお金で買ったばかりの新しいグローブとバットを使っているのを見て驚いています。ユミエはタケシと同じ金額のおこづかいしかもらっていないのです。ユミエはお母さんの誕生日プレゼントを買うのにお金が足りず、父親にお金を借りなければならなかったのに、弟のタケシはどうして新しいグローブとバットを買う余裕があったのでしょうか。

ユミエとタケシのちがいはどこから生じたのでしょうか。2人の出費状況から比較して見ましょう。

**<ある1ヶ月の出費状況>**

- タケシは早起きして自転車で学校まで通学していた。ユミエはぎりぎりまでしっかり寝て、バスを利用していくことが多かった。
- ユミエは、毎日必ずハンバーガーショップかコンビニエンスストアにより、おやつを買って食べた。タケシは帰宅してから家でおやつを食べることが多かった。
- ユミエは週末に友達とイオンで映画を観た後、前から欲しかったCDや友達とおそろいの文房具を買った。タケシは友達とサイクリングで楽しんだり、公園で野球等をして過ごした。
- タケシは前もって計画して、母親へのプレゼントを手作りました。ユミエはぎりぎりになってあわてて母親へのプレゼントを買った。
- ユミエはちょうどおこづかいを使いきり、借金までしたが、タケシはおこづかいが残った。



<資料2>

金融広報中央委員会第46回「おかねの作文」コンクール入賞作文

「お金の持ち主」

大阪府吹田市南千里中学校3年 渡春奈

私はお金の価値は金額ではなく稼いだ人の気持ちの大きさだと思う。私がこのように思い始めたのはある小さな事件がきっかけだった。小学5年生の頃、私は道に財布を落としてしまったことがある。中身はたいした額ではなかったので、捜しもせずあきらめてしまった。その日の夜姉に言うと、すごく怒ってこういった。「あのお金はあなたの財布に入っただけでああなたのお金じゃない。お父さんやお母さんが私達のために一生懸命（ ）したお金なの。」この言葉に私はまだ納得できなかった。「確かに、お父さんが（ ）お金だけ盗んだわけではないよ。お父さんからもらったお金なの。だからもう私のものだったの。」 ……途中省略……

そして、財布をなくしてから5日後、用事で父の会社に行くことになった。会社で見る父はすごく熱心だけどすごく大変そうでその時初めて仕事の大変さを感じた。父が弱音を吐いたことはなかったが残業で遅くなった日は多々あった。その日の父はすごくしんどそうだった。私はなくした財布のことを思い出した。あの財布の中身は、父の何分かの給料でしかない。けれどもその何分かの給料の中には、父の（ ）が沢山つまっている。大きな仕事をやり遂げた時の何分かや、悔しい、悲しい、嬉しい時の何分かの仕事の給料かもしれない。 ……以下省略……

## 5 授業実践

### (1) 3年間を見通した全体指導計画

本授業は第3学年において実施した。小学校において「物や金銭の使い方と買い物」については既習しているが、普段の生活の中で、物や金銭の大切さを実感できる場が少ない。おこづかいの範囲内で「ほしいもの」に自由にお金を使い、自分で考え適切な購入ができていない現状がある。学習したことを日常生活で実践するためには、授業の中に繰り返し、Dの内容と関わらせた内容を盛り込む必要がある。

「D 身近な消費生活と環境」と「A・B・C」の学習内容との具体的な関連を図り題材を構成するなどして、実践的に学べるよう、内容の時数を配当した指導計画を見直した。本題材「家庭生活と消費（金銭の使い方や商品の購入について考えよう）」については、1学年において「A 家族・家庭と子どもの成長」の「家庭のはたらき」の学習において、「D 身近な消費生活と環境」の内容を関連させながら、小学校の既習事項を再確認し、第3学年で、具体的な内容を履修させる流れとした。

### (2) 問題解決的な学習について

#### ① 導入～展開前半場面

「お金に関する実態調査結果」を用い、自分の消費行動を振り返り、資料1の登場人物の消費行動から、生徒自らが問題を見出し、問題を解決するために設定した学習課題「お金をどのように使えばよいだろうか」に向け、意欲をもって課題追求できるようにした。多くの生徒がおこづかいの範囲内で「ほしいもの」に自由に使っている現状もあるが、「必要なもの」にもお金を使っていることにも目を向けさせた。「商品の選択と購入」の前段階として、「買いたい時」とはどのような時か、「wants」なのか「needs」なのかの意思決定ができているのかも確認させた。資料1の登場人物のお金の使い方に着目させ、問題点だけでなく、今後の生活まで考えることにより、自分の消費行動を重ねて考えさせ、経済的な自立へ向けて今から考えて行動しなければならない意識付けも図った。

#### <考えてみよう>

①あなたはどちらのタイプに近いですか？ ユミエ ———— | ———— | ———— タクシ

②ユミエとタクシはどんなタイプ？ このままの生活を続けていくとどうなるでしょうか？

<ユミエ> どんどんお金を使っていて 無駄使いを続け、いずれ 破産する	<タクシ> 計画して生活しており 無駄な出費がないため、 生活を続けていける。
---	---

次に、登場人物の「お金」の使い方が異なった原因をさぐり、ふだんの生活のパターンの違いによっても「金銭」の使い方に影響があることを感じ取れるようにした。少数意見ではあるが、お金の使い方は「性別」「性格」によるものだから仕方がないと考える生徒もいた。

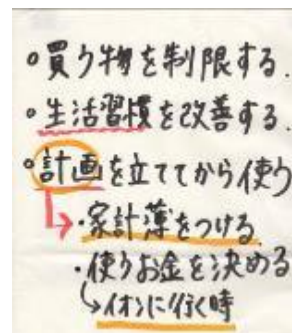
#### ② 展開後半場面

実際の自分の消費生活と関連付け考えさせるために、資料2「お金の持ち主」の作文を用いた。金銭についての具体的な共通イメージをもたせるには効果的な資料であり、キーワードとなる部分については空欄にし、当てはまる言葉を考えさせた。働いて収入を得て家族の生活が成り立っており、「家族の一員」として金銭を上手に使うことや経済的自立を目指し適切な消費行動をとることが必要であることを理解させた。資料2の活用により、資料1の登場人物の金銭の使い方について見直しが必要であることを全員が感じ取ることができ、「金銭の使い方」の改善具体策を一人一人が考えることができた。

「お金の持ち主」( )欄に入る言葉は？  
働いて稼いだ 働いた 思い 気持ち  
価値 努力 大切な 等



個人思考後、集団思考の場を取り入れ、よりよい消費行動へ向けてのヒントを得ることができた。話し合いの際は、「計画を立ててから使うのはどの場面がいいか」「本当に必要なものだったのかな」など発問をしながら机間指導を行った。安易に「お小遣いを減らす」「お金を使わない」という改善策も出てきたため、これから



「自立」していくための方法としてよいものかについても生徒に考えさせる場面を与え、キーワードを示し、改善策を再考させた。

### ③ まとめの場面

「お金の持ち主」の最後を読み上げ、金銭を使うことについて再考させ、「大切なお金を家族の一員としてどのように使えばよいか」自分の消費行動の改善策を考えまとめ、これからの生活に生かせるようにした。授業後に、「うまい棒50本の大人買いはやっぱりよくなかった。大切なお金を無駄遣いしてしまっていた。」と話に来る生徒もいた。ワークシートの記述からも自分の消費行動を振り返り、今後どのようにすればよいか行動への意欲も感じる事ができた生徒も多かった。

(生徒のワークシートより)

- お金を使う時は、ある程度計画性をもって使った方が良かった。自分の使い方も少し危ないので見直したい機会になった。
- 友達や後輩へのプレゼントなどを買うためにおこづかい帳をつけてみようと思う。
- 物事をしっかり考えて、先を見通してお金を使う。
- ゴミ工のように考えないで買ってしまふことがあるので、もっと計画性をもって使う。
- 正月などで大きなお金が入った時は貯金する。

## 6 成果 (○) と今後の課題 (●)

- 小学校での既習事項を確認し、実態調査をもとに、中学校段階でどのように関連付けて学習させるか、3年間を見通した全体計画を見直し、他の内容との関連を図った一覧表を作成することができた。3年間を見通したことで、繰り返し学べるよう題材配列の工夫もできた。消費生活に関する具体的な題材を検討し、授業を構成し実践することができた。
- 生徒の消費行動の実態調査の結果や資料の活用により消費行動の課題をつかみ、展開場面で話し合い活動を取り入れ、意見を出し合う中で、消費行動の見直しや改善策を具体的に考えることができた。「金銭」を根拠をもって使う意識づけができた。
- 「金銭」については育った環境や家庭によって使用状況も生徒の価値観も異なるが、「おかねの作文」を活用したことにより共通の価値観で「お金の使い方」を考えさせることができた。
- まとめの段階で個にもどし、自分の消費行動の改善策をじっくり考える時間確保が十分でなかったため、資料の取り扱いや学習形態を見直す必要がある。
- 「D 身近な消費生活と環境」については、中学生の生活をみると受け身である場合が多い。現在の消費生活が環境問題と密接につながっていること、持続可能な消費行動の必要性の側面まで考え、意思決定ができるようにしていく必要がある。

## 【テーマ1 金銭の使い方 高等学校】

宮崎県立日南高等学校

中山知子

### 1 題材名

「生活の自立及び消費と環境」 エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画

### 2 題材設定の理由

#### (1) 生徒の実態

本校は城下町として栄えた飢餓の傍に立地した歴史と伝統を誇る進学校であり、生徒の多くが幼い頃から地域に関わる行事が多いことから、地域を愛し地域とのつながりを大切に感じている。生徒のほとんどは自宅から通学しており、生活面においてかなりの部分を家族に頼っている。物や小遣いが必要な時にお金をもらう生徒が多く、金銭管理能力を養う機会が少ない。自分が使用している携帯電話の支払料金を知らない生徒もおり、お金に対する興味・関心が薄い生徒が多いのが実態である。

#### (2) 題材観

本校では1学年で「家庭基礎」を履修している。卒業後ひとり暮らしをする生徒も多く、自立への意識を経済的な側面からも高めていく必要がある。教材作りにおいては、限られた授業時数の中で、生徒が理解しやすく効果が出やすいものを常に意識している。本時では、家計の仕組みを理解させるために、「ひとり暮らしの生

活費」を題材に演習を行った。しかし、生徒の実際の生活は、生活費の管理など親に頼り切っている現状であるため、家計に対する金銭感覚が曖昧でスムーズな演習が難しい。そこで、家計のシミュレーションができる演習シートを表計算ソフトで作成し、短時間で演習できるように工夫をした。また、グループ演習により他の生徒とお金に関する価値観を共有し、楽しみながら興味を高めるようにした。これらの工夫により、生徒が生活全般の収支をより身近なこととして捉えて、自分の消費行動を見直し、お金への関心を高めるきっかけとしたい。

### (3) 指導観

大学卒業後の社会人1年生が、どれくらいの収入と支出で暮らしているのかを知り、費目ごとの経費を考えると、これからの生活の収入と支出を考えさせたい。家計における収支のバランスや計画性にとどまらず、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた貯蓄や保険などの資金計画についても関心を持たせたい。また、自立に向けて、今の自分に何が足りないのかを自覚させ、これからの実生活において「お金」を意識する習慣を身につけさせたい。自分の将来を見通しながら、限られた収入を上手に分配して最大の満足が得られる金銭管理能力を養いたい。

## 3 指導計画（3時間）

時数	小題材名	学習活動
1	人生設計と経済設計	人生で予想される出来事にお金がどのくらい必要か理解し、生涯を見通した生活には、経済の管理や計画が必要であることを理解する。
1	リスクと資金管理	人生におけるリスクについて考えさせ、貯蓄の目的や保険加入の理由について考える。
1 (本時)	ひとり暮らしの生活費をシミュレーションしてみよう	大学卒業後の社会人1年生が、どれくらいの収入と支出で暮らしているのかを知り、シミュレーションシートを用いて、グループ演習を行う。

## 4 本時の指導計画

(1) 本時の題材 ひとり暮らしの生活費をシミュレーションしてみよう

(2) 本時の目標 ひとり暮らしにおける生活の収入と支出のバランスについて理解し、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考えることができる。

(3) 本時の展開

過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入・展開	○本時の目標の確認 ○生活費シミュレーションの注意点を確認する。 ○生活費のシミュレーションを開始する。	○シミュレーション方法を理解する。 ○シートを使い、自分達の生活を振り返りながら、それぞれの項目の費用を考える。 ①東京都勤務ひとり暮らし ②宮崎市勤務ひとり暮らし ③宮崎市勤務実家暮らし ④日南市勤務実家暮らし ○食費は食事演習シートをもとに1ヶ月分を計算して算出する。	○住居選択用のカードの配布。 ○各グループを巡視し、生徒の質問に答え、スムーズに進むようにする。	生涯を見通した経済管理や計画について考えることができる
	○各班で協議 ○代表者の発表	○人生におけるリスクを確認し、見直す項目がないか協議し、悩んだ点とその理由を発表用シートと学習プリントに記述する。 ○発表用シートを黒板に貼る ○各グループから代表1班が発表をする。 ○黒板の各班の意見と各グループの発表を聞き、改めて気づいた点を学習プリントに記述する。	○各グループに発表用シートを配布する。 ○発表の内容をスクリーンに映す。	
まとめ	○まとめ	○本時を振り返り、これから自分が身に付けたい力について考える。		

## 5 授業実践

### (1)指導の工夫

#### ア シミュレーションの工夫

普通科4クラスで授業を実践したが、最初のクラスでは、金銭感覚の乏しさから、消費支出の項目を生活実態に合わない金額で入力するグループがいくつか出てきた。そこで、あらかじめ生徒に、生活必需品の物価を調べてくるように伝えた。また、生徒が混乱しないようシートの項目に補足部分を作ることと、決まった金額や選択肢のある金額は選択方式で入力ができるようシートを工夫した。シミュレーションは、①実収入②非消費支出③消費支出・実支出以外の支出の順で入力し、家計におけるお金についての項目をしっかりと確認させ、生徒が卒業後に想定されるライフスタイルとして、四つのパターンを作った。また、それぞれの生活の事前調査をし、地域の実態に合わせた選択肢を作ることによって限られた時間でも演習がしやすくなり、生徒が自分の生活として考えやすくなった。

【ひとり暮らしの生活費シミュレーションシート】Microsoft Excel 使用

③食費	
④住居費	
⑤光熱水道費	
⑥家具家事用品費	8000 10000
⑦被服履物費	

#### イ 演習の工夫

3人程度のグループを作り、四つのパターンの一つを担当させ シミュレーション演習を行った。授業の中で、生徒から「トイレットペーパーは月にどれくらい使っているの？値段がわかって、どれくらい必要かわからない。」「自分で使っている携帯の使用請求額を知らない。」などの疑問がたくさん出てきた。また、グループ内でも生活の価値観から重きをおきたい項目が違い、それぞれの生活スタイルの違いを実感していた。グループ内で出た項目の金額差について意見を出し合い、決められた金額の中でやりくりするために何を優先すべきなのかを議論をしていた。グループ演習をすることで、他の生徒とお金に関する価値観を共有し、より楽しみながら、生活に必要なお金について興味を持てるようにした。シミュレーションの途中で、リスク管理を甘く考えていたひとり暮らしの実体験談について話し、リスク管理について見直す項目がないか班で再度協議を行った。協議後、悩んだ点とその理由をシートに書かせ、黒板に貼らせた。

4 パターンの演習グループから一つの班だけ、シミュレーションで悩んだことや工夫したこと、こだわった部分について発表した。



悩んだ点 D 12班

家具家事用品費と被服履物費

理由

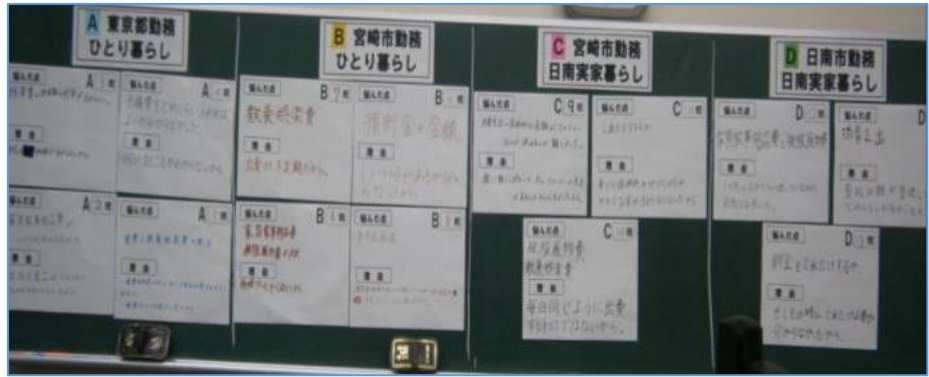
1ヶ月にどれくらい使っているのか分からなかった。

生徒は悩んだ点について詳細に話し、生活の中で大切にしたい部分や、今の生活が親に頼りきりであることに気づかされた等の発表をした。また、リスク管理を考え保険や預貯金に目を向けると、金銭的に余裕のある生活が厳しくなるので、バランスの調整に迷ったなど様々な意見が出された。

各班の意見と各グループの発表を聞き、改めて気づいた点を学習プリントに記述させた。最後に本時を振り返り、自分が大学を卒業するまでに身に付けたい力を「〇〇力」という言葉で表現させ、その理由を書かせ、数名の生徒に発表させた。

その他の回答「〇〇力」

- ・計画力 ・判断力 ・興味力 ・経済力 ・対応力
- ・管理能力 ・自活力 ・節約力 ・先を見通す力等



★生活費シミュレーションをしてみ  
て、23歳（大学卒業後）までに  
身に付けたい力は何か？

黒字力

その理由は？

あゆむ事に支那に反対し、  
何が何でも1ヶ月を黒字で  
余らせる。そのために  
計画を細かく立てる。

#### ウ 生徒の感想（学習プリントから抜粋）

- ・日頃、お金について強く意識していないため、物価が分からず、計画を立てるのが難しかった。また、不規則の出費があることにも気付けてよかった。
- ・一人暮らしをする時に、どのようにお金と付き合っていくかを考えておくことが大切だと感じた。
- ・まだまだ物の値段や世の中のことが分かっていないと感じた。今の時点でひとり暮らしは難しい。
- ・どこで暮らすにしても、お金のやりくりが大変だと感じた。節約できるところはしっかり節約し、限られたお金を有効に使えるようにしたいと思った。
- ・いつも親がお金を払ってくれるので、自分では値段が分からないものが多かった。
- ・理想と現実の差額が大きかった。差額が少なくなるようにマネジメントしていきたい。
- ・卒業するまでに自分の力でいろいろなことができるようになりたい。

#### 7 成果（○）と課題（●）

- 家計の仕組みを理解させ、演習を通して家計管理の重要性を理解させる点では、シミュレーション演習シートは効果が高かった。また、地域の実態に合わせ、一部の項目を選択方式にし、簡潔にすることで、生徒が自分の生活として理解しやすいようだった。また、グループで演習することで、お金に対する多様な考え方があることや、他の生徒の暮らしぶりから自分の自立度を認識できた。
- この授業を通して、生徒は親に頼り切って生活をし、自立できていない自分に気づくことができた。そして、これからの生活の中で何を意識して生活する必要があるのかを考えられたことは成果としてあげられる。お金を大切に考える方は、自分の生活を知り、ものや資源へ目をやるきっかけを作り、これからの生き方へとつながる。生活の中でお金を意識することで、家族とのコミュニケーションも増え、親への感謝の気持ちが自然と持てるようになったのはとてもよかった。
- 演習中、生活経験の乏しさが顕著に表れた。演習前に宿題形式で物やサービスの値段や、家族の家計管理について事前に調査すると、更に効果的な演習ができたと考えられる。「家庭基礎」においては、家庭での学習と関連させた教材の工夫がとても重要だと改めて感じた。今後も生徒たちの実状を考え、もの・お金・資源を大切にすることを育て、自立に向けてしっかりとした考え方で意思決定できるよう教材を工夫していきたい。

1 題材名 くふうしよう 楽しい食事

2 題材設定の理由

(1)題材観

本題材は、日常の食生活をもとに、栄養のバランスを考えた1食分の食事を計画し、目的を考えた適切な買物をするとともに食品や用具を衛生的に安全に使って調理することをねらいとしている。食事は生きていく上で重要であり、栄養のバランスのとれた食生活について学ぶことは将来にわたって生きて働く大切な知識となる。特に高学年は成長の著しい時期であり、健康を考えた食事について理解を深めることが必要である。これまでの実践や知識を生かし、栄養のバランスを考えた献立や買物を工夫することは、子どもたちが自分の成長や家族への思いを高め、作る楽しさや食べる楽しさを味わいながら食品の組合せや働き、調理法を習得するのに適切である。また、日常の食事や食品に関心を持ちながら実習することにより、簡単な調理の基礎を身に付け、家庭での実践につなげていくという面でも意義がある。

(2)児童観

本学級の子どもは、家庭科学習への意欲が高く、衣・食・住・家族とのつながりを考えて授業や実習に進んで取り組む姿が見られる。食については、5学年で「ゆで野菜」や「ご飯と味噌汁」6学年で「朝食を考えよう」の学習を行っており、調理用具の使い方や野菜の切り方、ゆで方など、基礎的・基本的な内容については理解している。また、栄養のバランスを考えた食事をつくることの大切さや材料の工夫、選び方についてもこれまでの学習の中で体験を通して学んできている。しかし、普段の食事については自分のこととしての捉えが十分でなく、偏食、小食、過食気味、野菜嫌い、朝食を食べないなどの問題を抱える子どもも少なくない。さらにこれまでの家庭生活における体験や経験の違いから、調理実習での活動や手順のよさなど個人差もある。この題材を通して、自分で簡単な食事を作る力やその大切さを考えさせていきたい。

(3)題材の指導計画

段 階	生み出す	自分の食べたい献立と給食のバランスのよい献立を比べることで、自分が献立を立てる時に大事な点は何かということに気づき、1食分の食事について必要なこと(栄養・値段・調理法)を確認し、明確な思いをもつことができるようにする。
	挑む	料理の本やホームページ、給食献立表を参考にすることで、材料の組み合わせや調理方法を工夫しながら問題解決していくことができるようにする。
	生かす	調理の反省を生かして、家庭でも実践し振り返るとともに、確かな技能を身につけることができるようにする。

3 指導計画 (12時間)

(1) 1食分の献立について話し合う。 ・栄養のバランスや量のバランスについて・・・1 ・献立を作るときの注意や買い物の仕方について・・・1 (本時)	2時間【関心・意欲・態度】【知・理】
(2) 1食分の献立をつくり栄養のバランスを確かめる。	3時間【創意工夫】【知・理】
(3) 調理実習の計画を立てる。	2時間【知・理】
(4) 計画をもとに調理実習をする。	3時間【創意工夫】【技能】
(5) 調理実習を振り返り、家庭での1食分の食事の献立をつくる。	1時間【関心・意欲・態度】
(6) 実践報告会をする。	1時間【関心・意欲・態度】

4 本時の目標 1食分の料理を作るための材料の情報をもとに、自分なりに選択しながら、目的にあった選び方について理解することができる。(知識・理解)

5 本時の指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり	評価
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 材料選びの確認                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・タマゴ・じゃがいも・ウインナー</li> </ul> </li> <li>○ 本時のめあて                     <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">                         上手な材料の選び方を考えよう。                     </div> </li> </ul> <p>2 学習の進め方について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合いの視点                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1食分の料理を作るためにどの材料を選ぶか。</li> </ul> </li> </ul> <p>3 材料の選び方について考えたことをもとに班で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 材料選びの視点をもとにした一人調べ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・品質(表示) ・マーク</li> <li>・値段 ・買い方</li> </ul> </li> <li>○ 班での話し合い                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・卵、じゃがいも、ウインナーは条件を変えた3種類のカードの中から選ぶ。</li> <li>・インターネットの宣伝ページを見ることでインターネットでの購入の良い点と問題点を考える。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1食分の献立の中の主菜となるじゃがいも料理の材料選びを提案することで、関心・意欲を高めながら活動に取り組めるようにす</li> <li>○ 個人での思考を十分に深める時間を確保し、班での話し合いや全体での発表に根拠をもって臨むことができるようにする。</li> <li>○ 食品の情報について品質、値段、買い方など、根拠になりやすいことを設定しておくことで、子どもなりに選び方を考えられるようにする。</li> <li>○ 考えのまとまらない子どもには、その理由を記入させ、グループの話し合いで相談して決めてもよいことを伝える。</li> <li>○ グループでまとめた結果を全体で発表し意見の交換をすることで、食品の選択方法が一つではないことに気付くようにする。</li> </ul>	<p>材料の情報をもとに選択し、目的にあった選び方をすることの大切さ、について理解している。</p>
<p>4 それぞれの材料の選び方や買い方について全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 材料の選び方、情報の生かし方</li> <li>○ 表示マークについて</li> </ul> <p>5 本時学習を振り返り学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 分かったことの発表                     <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">                         それぞれを選んだ理由を確認しよう。                     </div> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保存についてふれ、たくさん買い過ぎて食品が傷むと高い買い物になることに気付くようにする。</li> <li>○ 加工食品を選ぶ際の視点として、加工食品の表示マークについて簡単に説明する。</li> <li>○ 分かったことを発表させ、まとめることで、調理実習の買物に生かせるようにする。</li> <li>○ 人数や場面など調理の条件や設定を変えた例について話をする事により、材料を選ぶ視点はいつも同じではないことに気付くようにする。</li> </ul>	

6 授業の実践

生活と関連付けた話し合い

「安くて賞味期限の近い卵」「栄養価も値段も高い卵」などそれぞれ条件を変えた材料の中からどれを選ぶか話し合う活動を取り入れることで、買い物のあり方について十分に考えたり、意見を出し合ったりする場を設定した。



どの材料を選ぶ？  
安い方がいいよね。こっちがいいよ。

家にある野菜を使えばむだな買物をしなくてすむね。

必要な分だけ買うのと、多めに買うのと、どっちがいいのだろう。





### 話し合いを生かした実習

買い物の計画を立てたが、家にあったものを準備した子どもも多く、無駄な買物をしないということを実践できた。

調理をしながら、余った材料についてどうすればいいか考える子どももいた。

私は大きめの粉チーズを買ったけど家でも使うのかな？無駄にしてしまうかもしれないから、この料理に全部使ってしまうのかな？

ぼくは家にあったベーコンをもってきたよ。



## 7 成果(○)と課題(●)

- 1食分の献立の中で必要な材料について実際に買物をして準備する計画を立てていたため、自分のこととしてしっかりと考える姿が見られた。
- 友達との話し合い活動を通して、いろいろな考えや視点があることに気付くことができた。
- これまで学んできたことを関連させることで食についての学習の中で、消費生活についての考えも深めることができた。
- 献立を作るときの注意や買い物の仕方について学習した後の調理実習では、材料の無駄を省こうとする姿が見られ、ものを大切にすることを意識が身に付いていた。
- 今回の研究にあたり、消費生活に関わる内容は実習をする上で必要と考え関連をもたせて題材を構成した。他の分野についてもかかわりをもたせた単元計画、学習指導計画が必要だと感じる。

## 【テーマ2 衣食住における実践 中学校】

宮崎市立広瀬中学校 大岩本里子

### 1 題材名 自分らしく着る「日常着の活用」

### 2 題材設定の理由

#### (1) 題材観

今日の科学技術の進歩や社会の変化は、私たちの衣生活にも大きな影響を与えている。繊維の開発や加工技術は飛躍的に進歩し、様々な特徴をもった繊維が製品化されている。また、販売方法も多様化し、どの地域で生活していても簡単に衣服を選択、入手することが可能であり、安価な既製服も多いことから、衣服が原料の生産や製造の多くを諸外国に頼っている製造エネルギーのかかった貴重な資源という意識も希薄化している。中学生の時期は衣服の着こなしへの関心が強くなり、個性の表現が豊かになる時期である。また、衣服を自分で購入する機会が増える時期でもあるため、衣服を選択し購入する場合において自分の個性を考慮しながらも、着心地や手入れの方法、他の衣服との組み合わせなどを自分自身の力で確認できることは大変重要である。このことは、氾濫する情報から本当に必要なものや正しい情報を選ぶ力を身に付けさせ、ひいては家庭生活を主体的に営んでいく力の育成につながる。これらの力を身に付けた生徒一人一人が、消費者としての自覚をもち、「資源」や「お金」を大切にしながら持続可能な社会を構築するという意識をもって生活することは大変意義深いと考え、本題材を設定した。

#### (2) 生徒の実態

本学級は学習への関心が高く、意欲的に学習に臨む生徒が多い。事前に衣服の購入に関するアンケート調査を行ったが、購入時に「いつも確認すること」に、全員が「デザイン」と答えた。次いで、「値段」「サイズ」を92%の生徒が確認すると答えており、「色」が84%、「柄」「模様」と続き、多くの生徒が自分なり視点をもって衣服を購入していることが分かった。衣服の購入において、「買ってよかった」衣服は、「何度も着用した」、「着心地が良かった」31着の例が挙げられた。一方、「買わない方がよかった」衣服も30着を数え、「すぐに色が落ちた」、「着用しなかった」など、衣服の購入がうまくいかなかった経験をもつ生徒も少なくなかった。